

令和7年度第2回練馬区在宅療養推進協議会認知症専門部会会議要録

- 1 日時 令和7年10月31日（金曜） 午後6時30分～7時30分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 出席者 <委員>
古田委員、田邊委員、小松委員、佐藤委員、吉野委員、鵜浦委員、油山委員、志寒委員、樋口委員、杉浦委員、豊委員、加藤委員
枝村委員（高齢施策担当部長：部会長）、西方委員（高齢者支援課長）、吉川委員（高齢社会対策課長）、阿部委員（介護保険課長）、内田委員（地域医療課長）
<事務局>
高齢者支援課在宅介護支援係
- 4 公開の可否 オンライン会議のため非公開
- 5 次第 1 認知症月間の取り組み（報告）
2 令和8年度版 認知症ガイドブックの改訂方針（意見照会）
3 認知症施策推進計画策定に向けた取り組み（報告）
- 6 資料 資料1 認知症月間の取り組みについて
資料2 令和8年度版認知症ガイドブックの改訂方針について
資料3 認知症施策推進計画策定に向けた取り組みについて
- 7 事務局 練馬区高齢施策担当部高齢者支援課在宅介護支援係
電話 03-5984-4597

8 会議の概要

(部会長)

【開会、挨拶、新委員の自己紹介】

(事務局)

【出席確認、資料確認】

(部会長)

資料1について説明を。

(事務局)

資料1について説明。

認知症フォーラムに関して当日の様子や内容について、補足の説明を願います。

(委員)

城北さくらクリニックの犬丸先生に講師を依頼し、在宅医療に関する説明に加え、自身のご家族が認知症であった経験についてもお話をいただいた。これらの内容は会場の共感を呼び、温かみのあるフォーラムとなった。今回のフォーラムでは、アンケートの回収率が非常に高く、約50件の質問が寄せられており、参加者の関心の高さがうかがえた。また、各参加団体のブースにも多くの質問が寄せられたことから、今後は、質疑応答の時間をより多く確保する必要があるとの意見が出された。さらに、参加者の中には学生の姿も見受けられたことから、次回は光が丘福祉専門学校への周知を検討するなど、幅広い世代に情報が届くよう、高齢者層に限らない広報手段の見直しが必要であるとの意見も出された。

(部会長)

映画上映および講演会では、若年性認知症の当事者である藤島様にご講演いただいた。講演では、当事者の声をはじめ、日常生活における工夫や、症状を受け止めながら前向きに生活されている様子などが語られ、認知症に対して不安や心配を抱える区民にとって、理解を深める貴重な機会となった。今後は、子どもを含む全世代が参加できるような取り組みを進めていく必要があると考える。

認知症月間の取り組みについて、ご意見、ご質問があれば発言いただきたい。

(委員)

認知症フォーラムには認知症に関する相談窓口としてブースを設けた。城北さくらクリニックの犬丸先生による温かく熱意のこもった講演は、区民の心に強く響いており、講演後には「犬丸先生のところに相談に行きます」と話す参加者も見受けられた。毎年、相談窓口を担当しているが、以前は漠然とした内容の相談が多かったのに対し、近年は「デイサービスはどこが良いか」など、具体的な相談が増えている。区民の認知症に関する知識や情報収集力が向上している印象を受けた。今後も継続して相談窓口を設けていただき、引き続き参加できることを希望している。

(部会長)

認知症について、インターネット上で多くの情報に触れられる一方で、正確な情報と偏った情報が混在している現状がある。そのため、個々の生活状況や家族構成に応じて適切な情報を選び取ることが困難なケースも見受けられる。こうした背景からも、専門スタッフによる継続的な支援や的確なアドバイスの重要性が改めて認識された。今後も継続的な支援およびアドバイスをお願いしたいと考えている。

また、子どもたちを対象とした認知症への理解促進の取り組みは、少しずつではあるが前進が見られる。認知症サポーターになった子どもたちが「地域活動に取り組んでみたい」と自発的に意欲を示す場面も増えている。子ども世代への働きかけについては、これまで多くの意見が寄せられており、今後も教育委員会や学校と連携しながら、継続的に取り組んでいきたいと考える。

(部会長)

資料2について説明を。

(事務局)

資料2について説明。

(部会長)

認知症ガイドブックの改訂方針について、ご意見、ご質問があれば発言いただきたい。

(委員)

先日、とうきょう認知症希望大使の長田氏に同行し、東京都の会議に参加する機会があった。会議では、東京都が作成している「知って安心 認知症」パンフレットの改訂に向け、当事者に意見をうかがう場面があった。特に印象的だったのは、認知症になったからといって、イラストに「？」マークをつけたり、紫色で混乱や困惑を強調したりするような表現は避けてほしいといった意見が多く出ていた点である。今後、区における認知症ガイドブックの改訂に際しても、当事者の声を丁寧に反映し、イラストや表現方法についても十分配慮いただきたいと感じた。

(委員)

医療の視点からみても、今回のような取り組みは非常に温かみが感じられる。一方で、認知症と一口に言っても状況は様々であり、家族とともに穏やかに過ごしている方もいれば、進行に伴い家族の負担が大きくなっているケースも少なくない。そのような現実がある中で、ガイドブックの情報発信においてマイナス面を強調しすぎると、受け手が不安を感じてしまう可能性もあるため、内容としては組み込みづらいと感じている。我々が訪問している方々の多くは、支援の手が必要な状況にあり、単に「温かく見守る」だけでは対応が難しいケースもある。こうした現場の実情をどのように情報として伝えるかは、非常に難しい課題であると感じている。

(部会長)

認知症の症状は人それぞれであり、医療的ケアや日常的な支援が必要な方もいれば、そうではない方もいる。希望を持って自分らしく暮らすことができるという点を強調するだけでなく、必要な支援や制度が整備されていることについても、区民の皆様に丁寧にご案内していくことが重要であると考える。また、今後の取り組みにあたっては、引き続き練馬区医師会や薬剤師会をはじめ、医療関係者など専門的な知見をお持ちの方々と連携しながら、支援のあり方について相談を重ね、ご意見をいただきながら進めていく。

(部会長)

資料3について説明を。

(事務局)

資料3について説明。

(部会長)

今回の取り組みを振り返ってのご意見、ご感想があれば発言いただきたい。

(委員)

当日、同席した当事者の方は、一見すると非常にお元気そうな男性でしたが、「こうした場に来るのは初めてで、見た目以上に緊張している」と話されていた。各テーブルでは地域包括支援センターの職員がファシリテーターを務めてくださっており、「何が困っているか」「どのような支援を望んでいるか」といった希望をうかがう貴重な機会であったと感じている。

当日は、日常生活の様子や日々の活動など、比較的話しやすい内容に話題が集中してしまい、政策の参考となるような深い部分、心情に触れるような話には至らなかったのが率直な印象である。それでも、当事者から「こうした場に呼んでもらえて、いろいろな話ができるよかったです」「皆さん真剣に考えてくださっていることが伝わった」といった前向きな感想をいただき、非常に有意義な時間であったと受け止めている。

(委員)

当事者を中心に、さまざまな立場の方と対等に意見交換ができたことは、大変有意義であった。私が、同席したテーブルでは、当初「認知症といつても、何を話せばいいのか」と戸惑いを見せていた当事者が、次第に打ち解け、最後には笑顔で積極的に発言されていた姿がとても印象的だった。介護や困り事を前提とした場ではなく、「地域」や「生活」を軸にした等身大の対話ができたことは、当事者にとっても参加者にとっても貴重な経験であったと思う。

例えば、認知症のある方が食べこぼしを理由に馴染みの店を利用できなくなったというエピソードをきっかけに、日常の中での小さな困り事やつまずきについて多くの意見が交わされ、話が大いに盛り上がった。こうした会を今後も継続していただけると非常にありがたい。また、警察や商店、金融機関など、地域のさまざまな関係者にも参加いただける場が広がっていくことを期待している。

なお、地域ケアセンター会議に参加した際には、町会や大型マンションの自治会の方からも貴重なご意見をうかがう機会があり、地域コミュニティの多様なあり方について改めて考えさせられた。今後も多様な立場の方々が参加できる機会が継続して設けられることを願っている。

(部会長)

現在では、どの組織やコミュニティにおいても、認知症のある方がいらっしゃることが当たり前のこととなってきている。それぞれ関わり方で、困っていることもあるれば、うまくいっていることもある。こうした状況の中で、当事者の声を丁寧にうかがうことの重要性を繰り返し述べてきたが、同時に、家族会の皆様の声やご意見も、懇談会の場に限らず、こちらから積極的に出向いてうかがっていきたいと考えている。今後は、認知症施策推進計画の策定に向けて、さらに幅広いご意見やご質問、「こういった視点が必要ではないか」といったご示唆をいただければありがたく、引き続き皆様のお力添えをお願いしたい。

(部会長)

その他について説明を。

(事務局)

その他について説明。

(部会長)

その他について、ご意見やご感想があれば発言いただきたい。

(部会長)

全体を通して、ご意見やご感想があれば発言いただきたい。

(部会長)

【挨拶】

閉会